別紙

ＩＣＴ活用工事（擁壁工）計画書

当該工事において、施工プロセスの各段階および作業内容において、

ＩＣＴを活用する場合は、左端 のチェック欄に「レ」と記入する。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 施工プロセスの段階 | | 作業内容 | | 採用する  技術番号  （参考） | 技術番号・技術名 |
| □ | ①３次元起工測量 |  | |  | 1　　空中写真測量（無人航空機）による起工測量  2　　地上型レーザースキャナーによる起工測量  3　　無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量  4　　地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた起工測量  5　　ＴＳ等光波方式を用いた起工測量  6　　ＴＳ（ノンプリズム方式）を用いた起工測量  7　　ＲＴＫ－ＧＮＳＳを用いた起工測量  ※採用する具体の技術は受注後の協議により決定する。  ※複数以上の技術を組み合わせて採用しても良い。 |
| □ | ②３次元設計データ作成 |  | | |  |
| □ | ④３次元出来形管理等の施工管理  （※右欄の技術番号  5～7の出来形管理  を選択した場合は、  費用計上の対象外） | □ | 出来形管理 |  | 1　　空中写真測量（無人航空機）による出来形管理  2　　地上型レーザースキャナーによる出来形管理  3　　無人航空機搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理  4　　地上移動体搭載型レーザースキャナーを用いた出来形管理  5　　ＴＳ等光波方式を用いた出来形管理  6　　ＴＳ（ノンプリズム方式）を用いた出来形管理  7　　ＲＴＫ-ＧＮＳＳを用いた出来形管理  ※複数以上の技術を組み合わせて採用しても良い。  ※ただし、上記５～７の出来形管理を選択して出来形管理を実施した場合は「３次元出来形管理・３次元データ納品費用、外注経費等の費用」の対象外となるので注意すること。  ※「①３次元起工測量」で採用した技術と相違しても良い。  ※計測装置位置と計測対象箇所との離隔・位置関係により１）～７）のＩＣＴを用いた計測においては、精度確保が困難となる箇所や繰り返し計測を行うことが必要となる箇所等も想定される。当該箇所においては監督員と協議の上、施工段階における出来形計測結果が判る写真・画像データ等と併用するなど、他の計測技術による出来形管理を行っても良い。 |
| □ | ⑤３次元データの納品  （※④右欄の技術番号  5～7の出来形管理  を選択した場合は、  費用計上の対象外） | ①②④により作成した３次元データを、工事完成図書として電子納品する。 | | | |

注 1) ＩＣＴ活用工事（擁壁工）の詳細については、ＩＣＴ活用工事（擁壁工）特記仕様書及び試行要領によるものとする。

注 2) 具体的な工事内容及び対象範囲については、契約後、施工計画の提出までに、発注者へ提案・協議し決定する。